

## 学校生活についてのアンケート調査の結果について

### 1 調査の概要

#### (1) 調査目的

学校生活についてのアンケート調査は、各学校においては、児童生徒の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決につなげることを、教育委員会においては、藤沢市全体の傾向を把握して今後の施策に反映することを目的として、全市立小中学校の児童生徒を対象に実施しています。

#### (2) 実施時期 2021年6月～9月

#### (3) 調査対象 全市立小・中学校児童生徒

小学生(単位:人)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	回答率
3,757	3,759	3,818	3,817	3,836	3,922	22,909	98.3%

中学生(単位:人)

1年	2年	3年	計	回答率
3,568	3,607	3,459	10,634	92.9%

※回答率は令和3年9月1日現在の児童生徒在籍数に対する回答数の割合です。

※欠席者等がいるため、回答率は100%になっていません。

#### (4) 調査・回収方法 無記名または記名で回答し、記入後その場で回収

#### (5) 調査内容 「学校生活についてのアンケート」

一昨年度は、質問形式を「はい」「いいえ」の2択の選択肢から回答するものでしたが、昨年度より設問数を減らし、複数回答するものに変更しています。今年度は、昨年度と同じ質問でアンケートを実施していることから、一部、昨年度の結果と比較し、実態把握できるようにしています。

なお、2年間の経年変化を示すにあたり、集計方法について表やグラフの割合の出し方を精査したため、昨年度示したものと変わっている部分があります。

また、昨年度より、コロナ禍におけるいじめ問題や児童生徒の不安な気持ち(設問8)と、地域や家庭等の学校外での状況(設問9)について把握できるように項目を設けましたが、今年度は、(設問9)について、例として「習い事、家でのこと、家族のこと、など」を示し、子どもたちが抱える表面化しにくい困りごとについて把握できるようにしています。

設問1～設問4 「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒の把握」

設問5 「相談状況の把握」

設問6 「自己の行動の見直し」

設問7 「周囲の児童生徒の意識」

設問8 「コロナ禍での不安や心配、困っていること」(自由記述)

設問9 「学校外での不安や心配、困っていること」(自由記述)

### 2 調査結果の分析の観点

#### (1) 児童生徒の学年別での実態把握と、昨年度の状況との比較

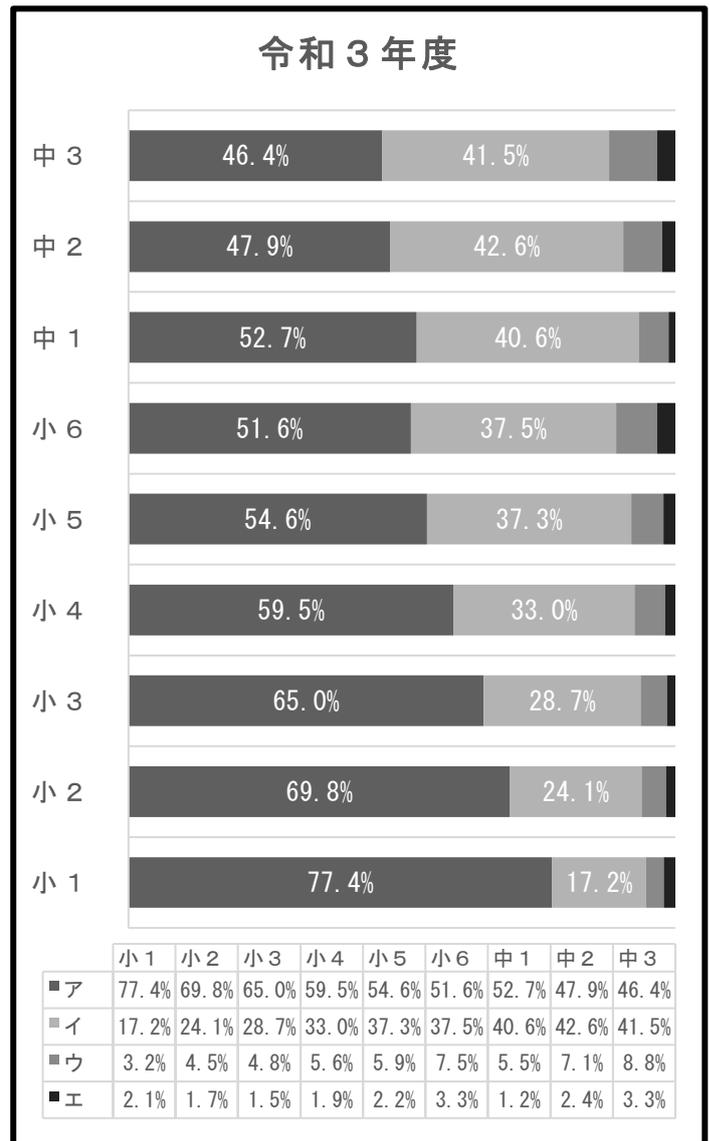
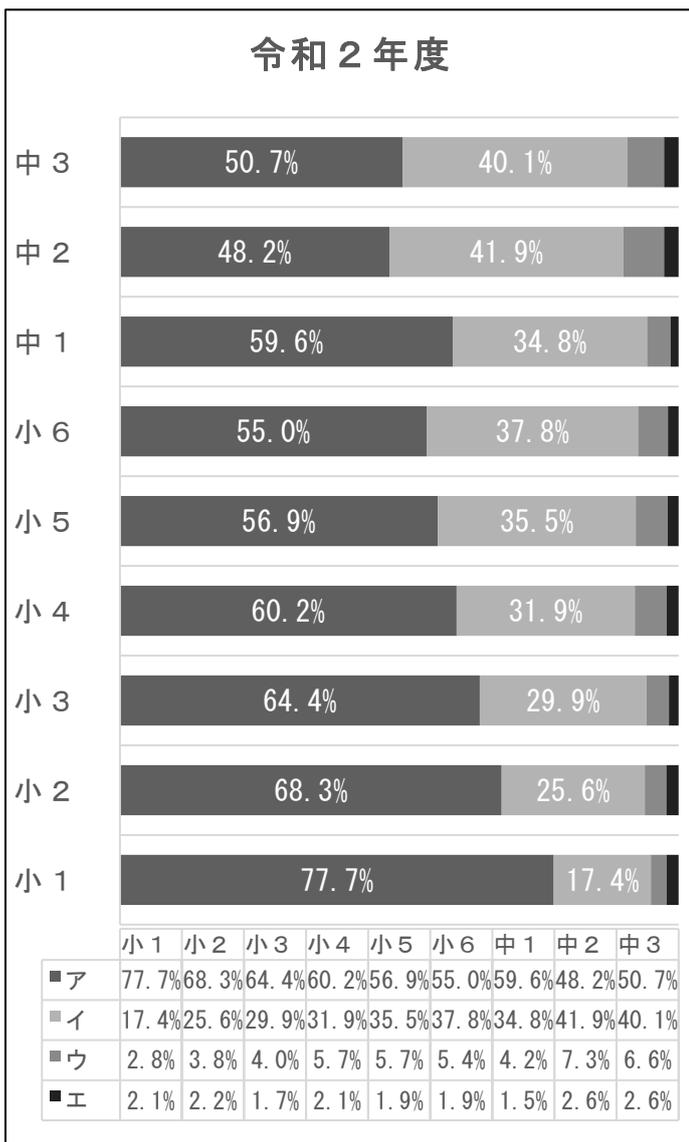
#### (2) 嫌な思いをしている児童生徒と嫌な思いをさせた児童生徒、嫌な思いをしている児童生徒を見たり聞いたりした児童生徒の割合

#### (3) 近年問題視される、パソコン、携帯電話・スマートフォン等に関わる割合

#### (4) 新型コロナウイルス感染症に関連した冷やかし等に関わる割合

### 3 調査結果の分析

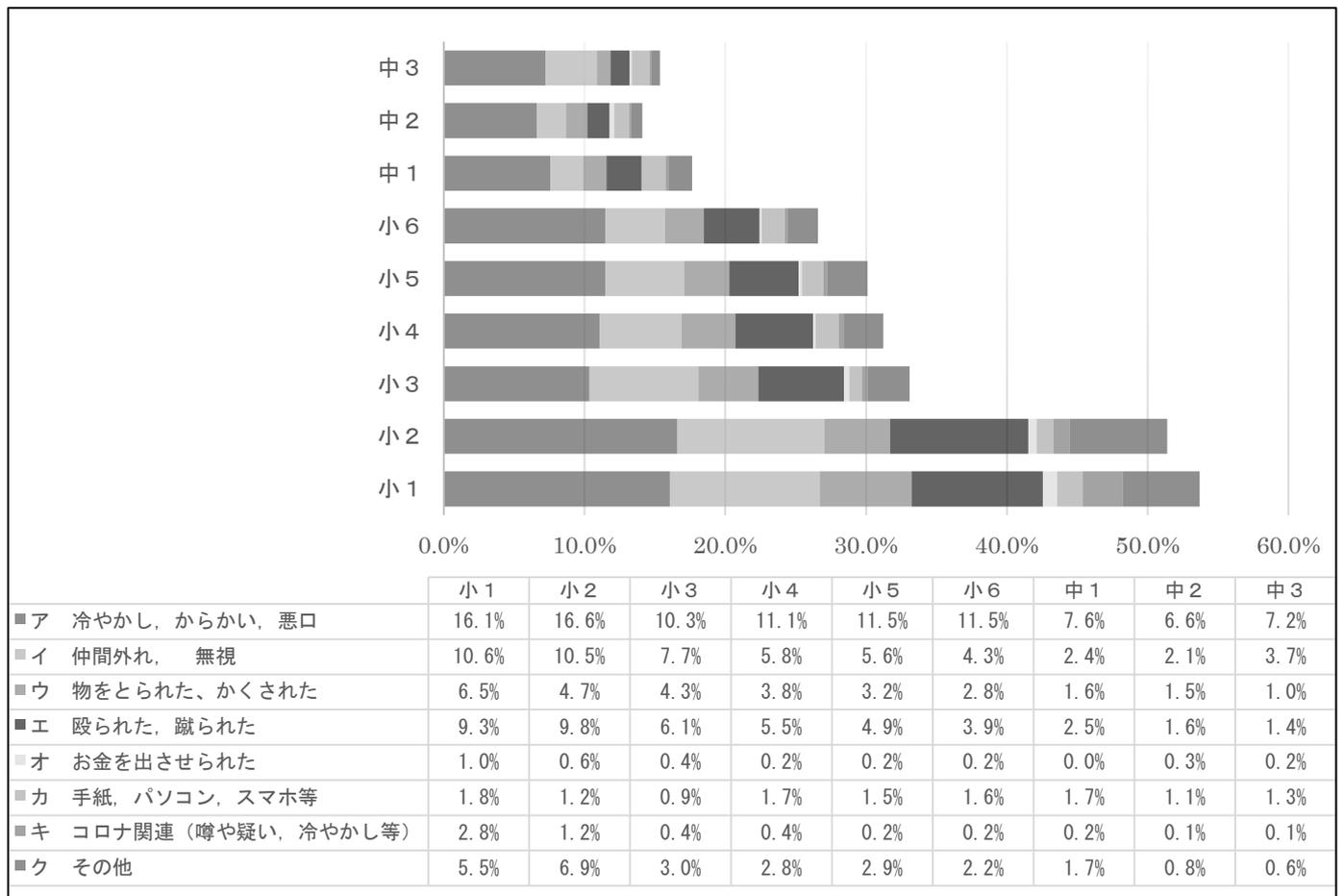
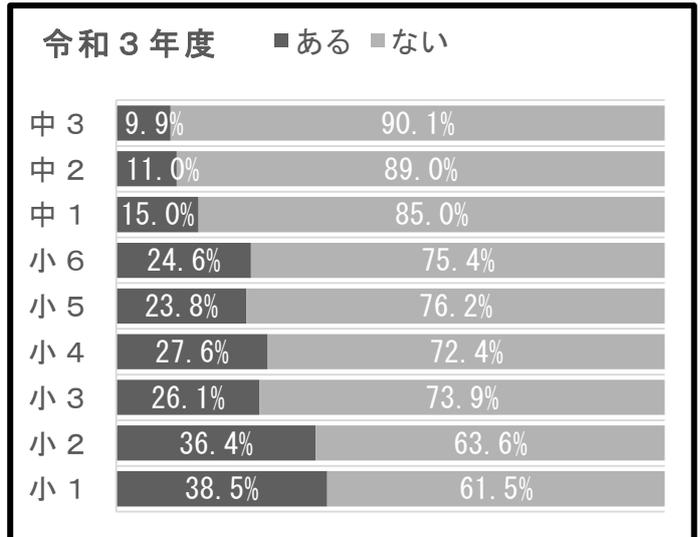
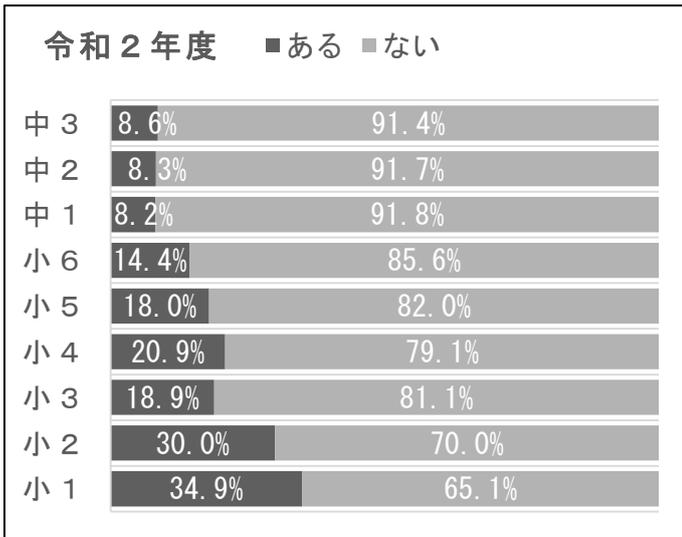
#### (1) 学校は楽しいですか。



ア 楽しい    イ まあまあ楽しい    ウ あまり楽しくない    エ 楽しくない

令和3年度において、学校が「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した児童生徒は、小6、中3以外は、90%以上となっている。「楽しくない」の数値が最も高い学年は小6、中3となっている。また、小中学校いずれにおいても、「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した児童生徒の割合は、1年生が最も高く、学年が上がるにつれて低くなっている。

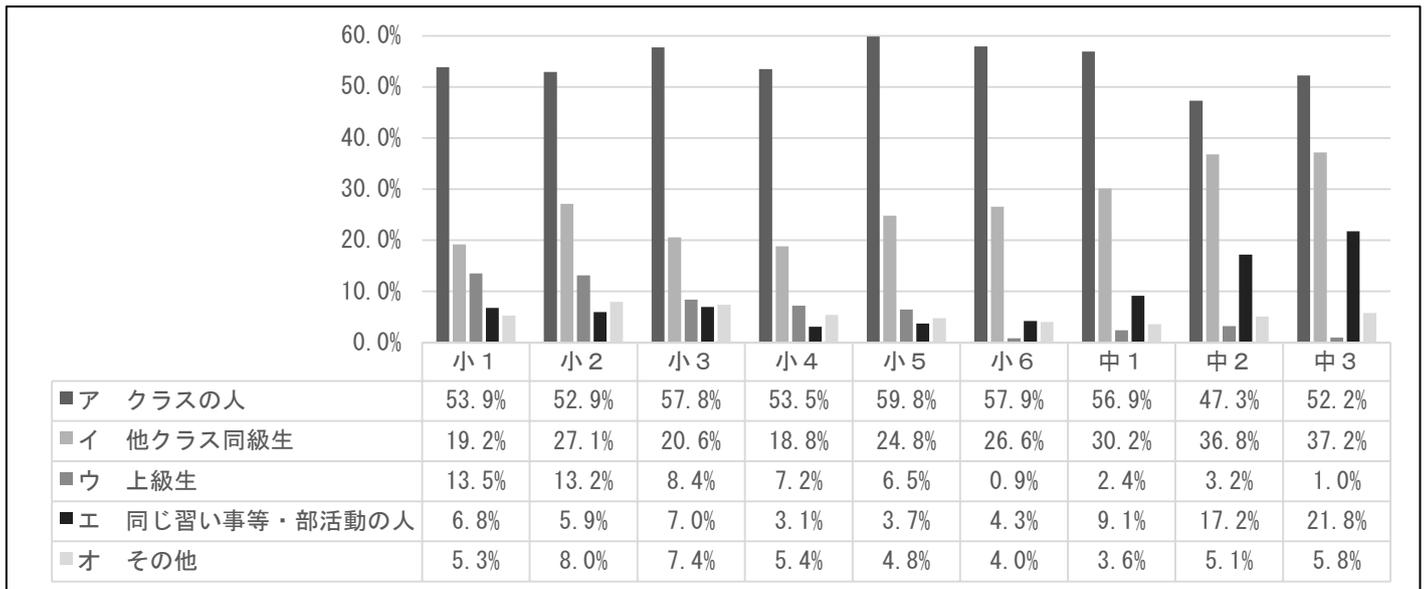
(2) 次のようなことをされて嫌な気持ちになったことがありますか。(複数回答可)



「嫌な気持ちになったことがありますか」という設問において「ある」と回答した児童生徒の割合は、令和3年度は、概ね学年が上がるにつれて低くなる傾向にある。また、昨年度と比較すると、すべての学年において「ある」と回答した児童生徒の割合が増加している。

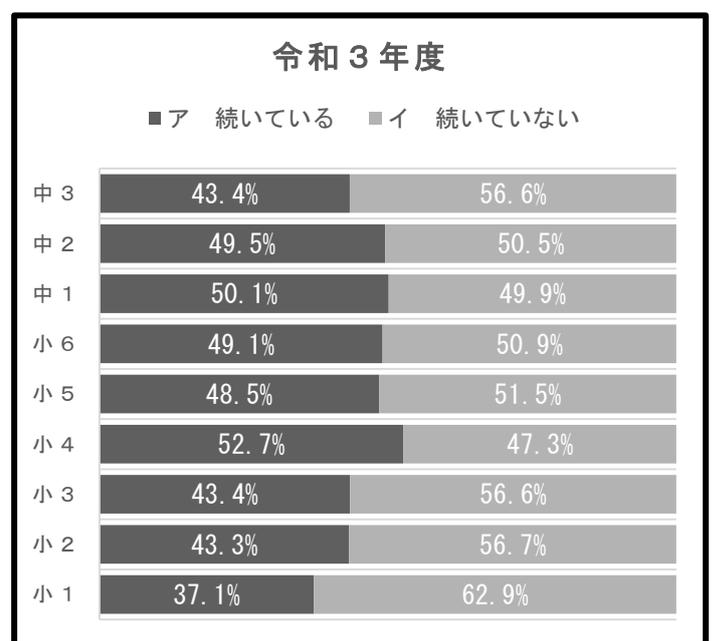
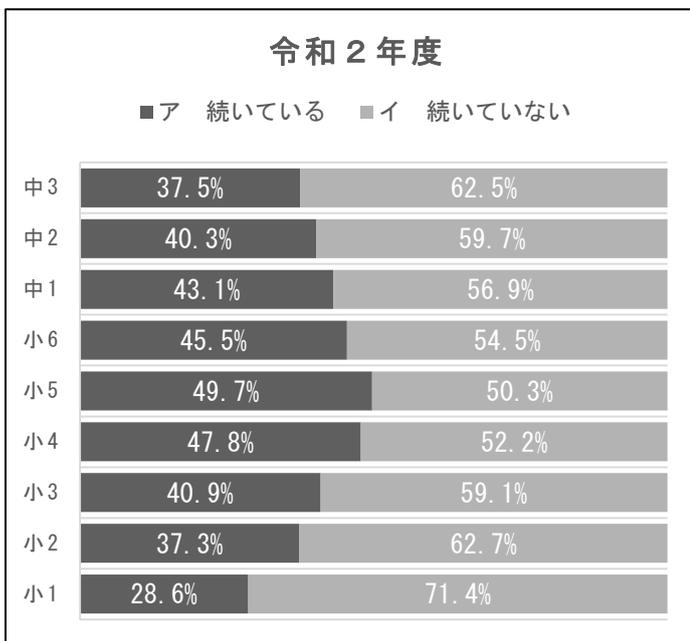
その種類では、どの学年も「冷やかし、からかい、悪口」が最も多くなっている。次いで、中1を除き、「仲間外れ、無視」となっている。「手紙 パソコン スマホ」とするものは、各学年、1%から2%程度おり、人数にすると約30人から70人程度の児童生徒が、嫌な気持ちになっている。「新型コロナウイルス感染症のことで嫌なことを言われた」と回答した割合は、小1が最も高い。

(3) 2のことを誰からされましたか。(複数回答可)



(2) の設問で、嫌な気持ちになったことがあると回答した児童生徒のうち、「クラスの人」にされたと回答した割合が最も多く、続いて「他クラス同級生」となっている。また、小2・小3では、「その他」と回答した割合が、他の学年に比べて高く、中2・中3では、「同じ部活動の人」を回答した生徒が15%を超えている。

(4) 2のことは今も続いていますか。

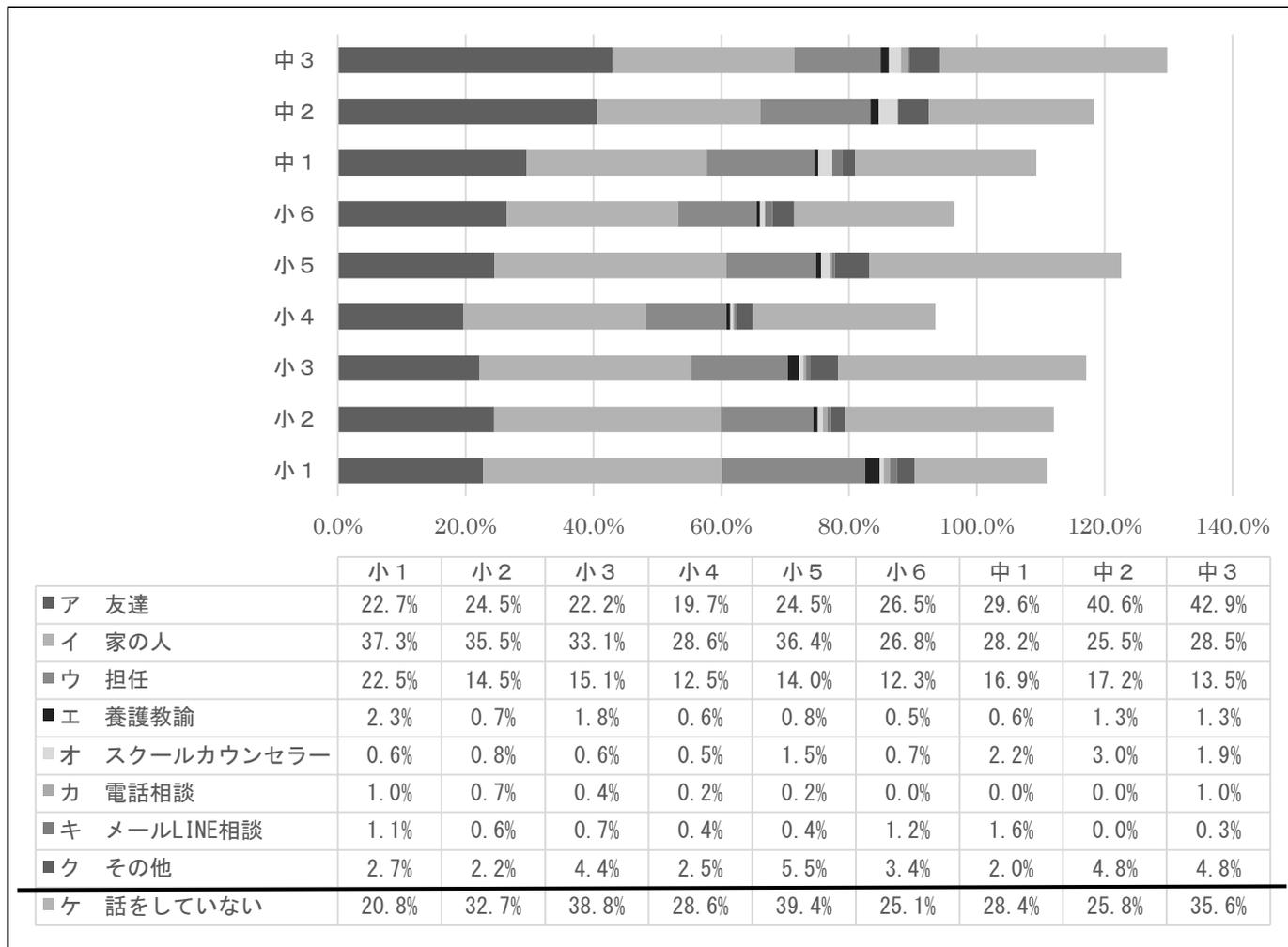


「続いている」と回答した割合が最も高かったのは小4で、小4を含めて、小5、小6、中1、中2の約半数の児童生徒が、「続いている」と回答している。

「続いていない」と回答した割合が最も高かったのは小1であった。

昨年度と比較すると、今年度の小6を除き、学年が上がるに連れて、「続いている」と回答している割合が増加している。特に、小2では、その変化が最も顕著で、昨年度小1の時には28.6%だったが、小2では43.3%となり、14.7ポイントの増加がみられた。

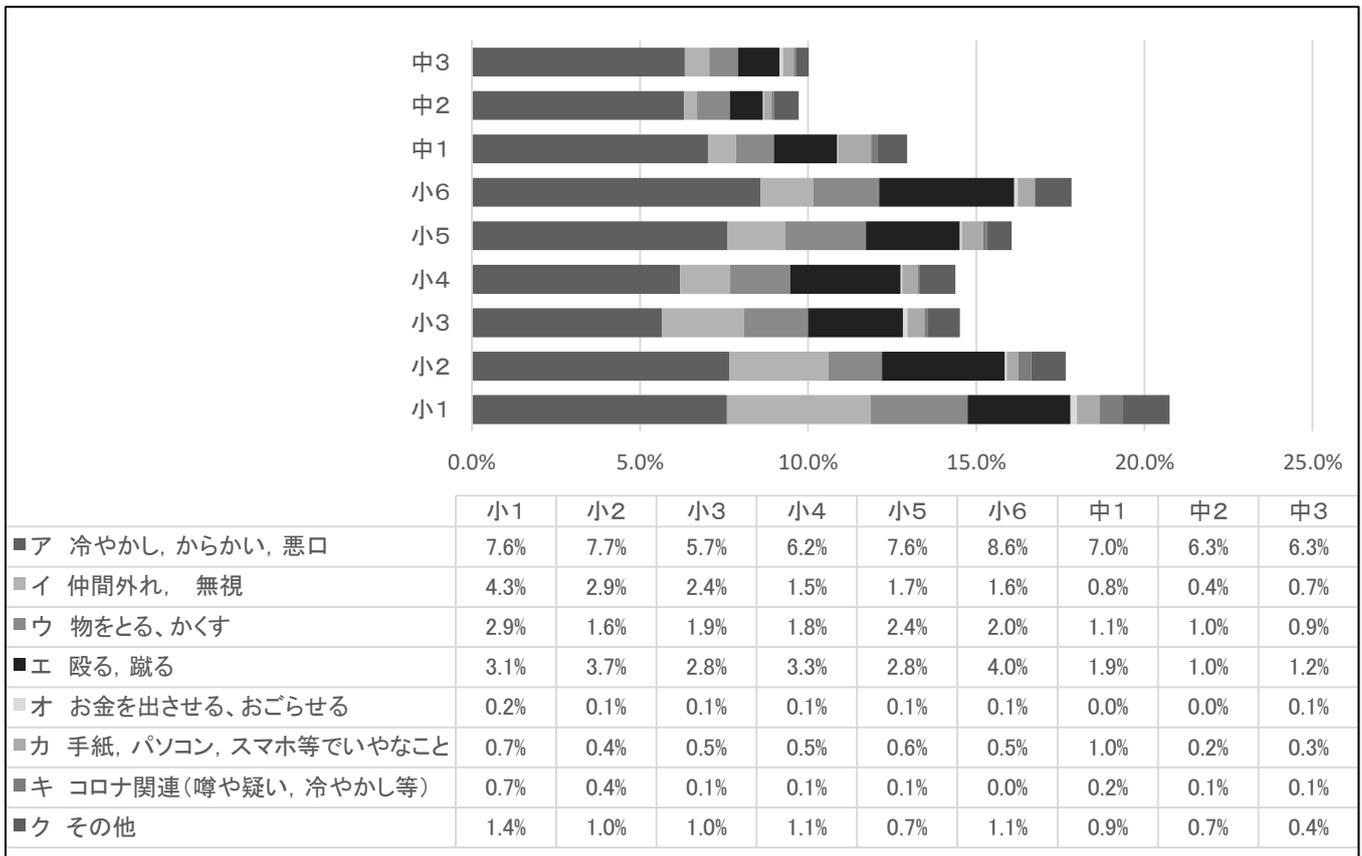
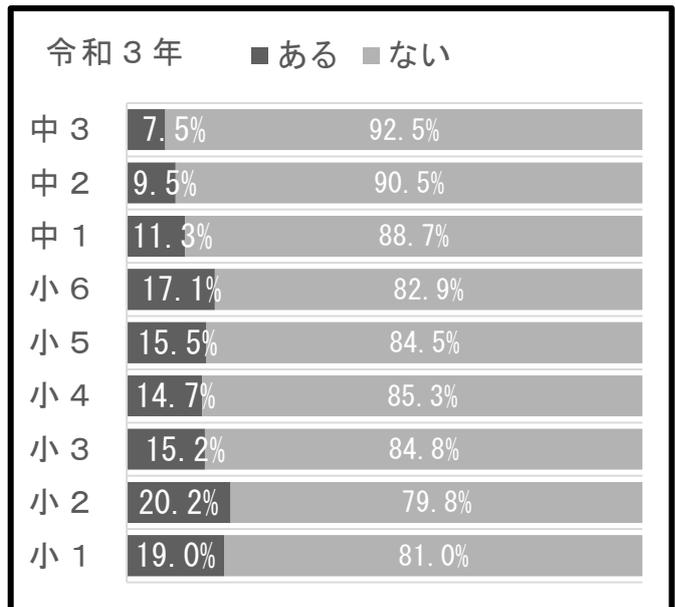
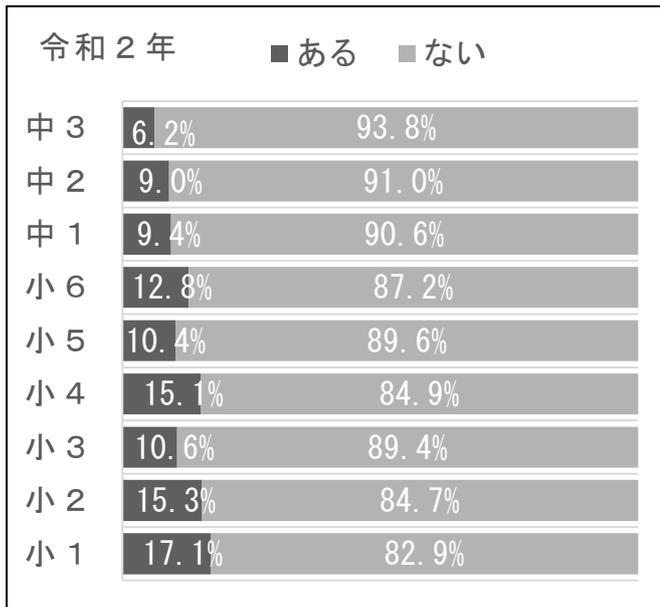
(5) 2のことを、誰かに話したり相談したりしましたか。(複数回答可)



「話をしていない」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに、3割程度となっている。また、相談した相手として、小学校では「家の人」が最も多く、高学年では、「友達」も多くなっている。中学校では、「友達」が最も多く、中2・中3では、40%を超えている。

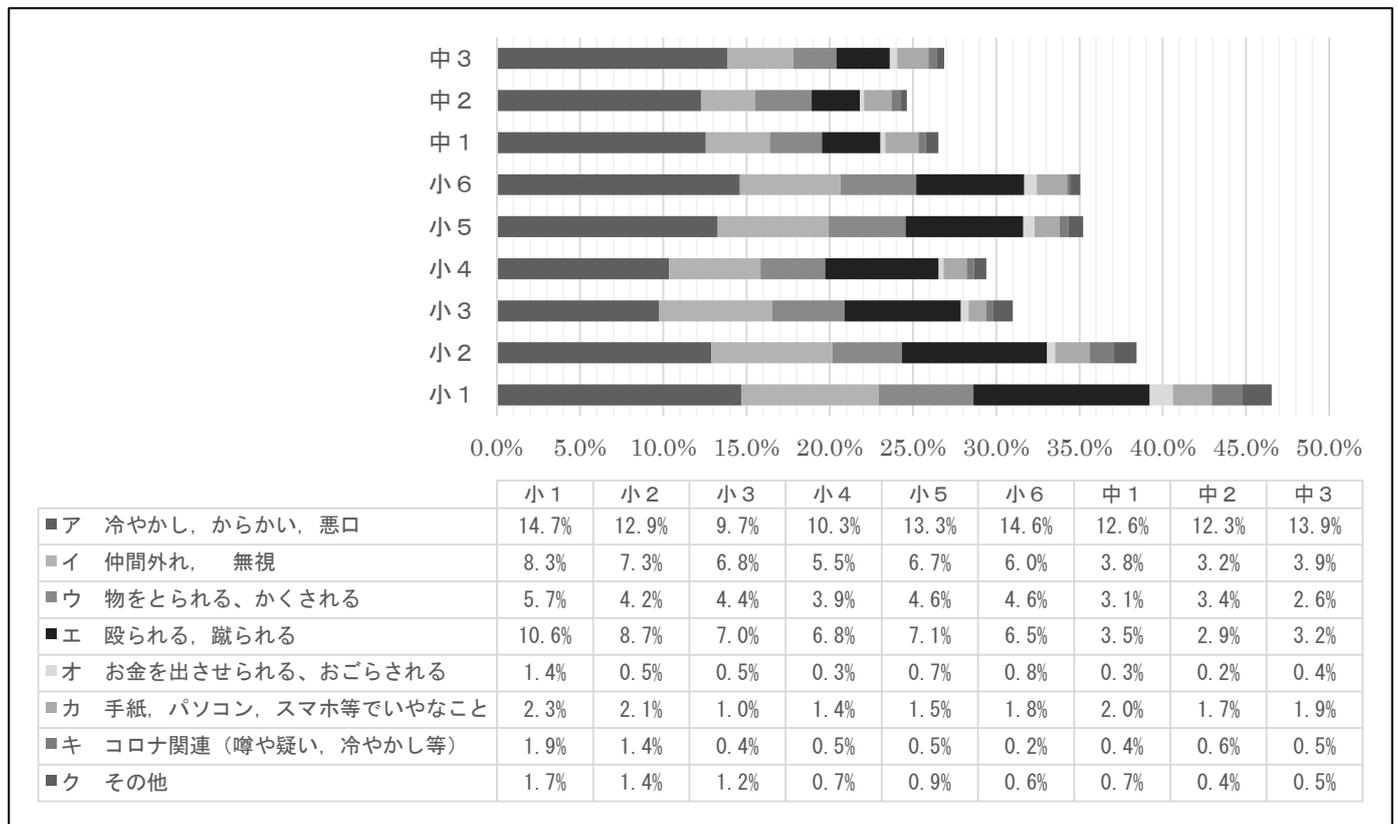
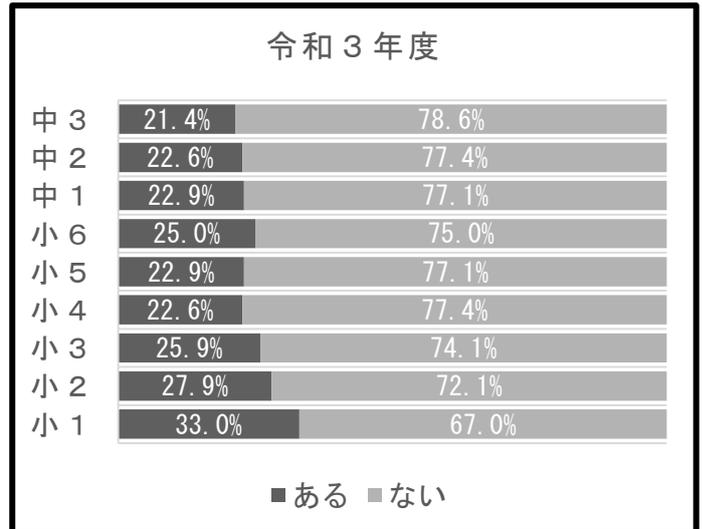
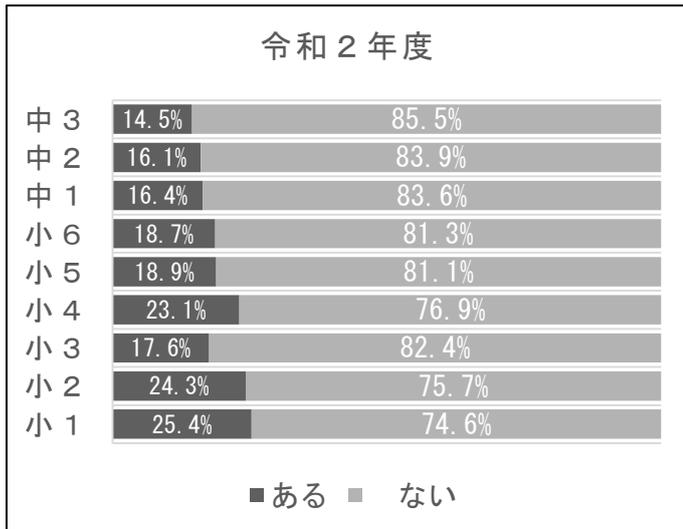
(6) 周りの人が嫌な気持ちになるようなことを言ったりしたりしたことがありますか。

(複数回答可)



嫌な気持ちになるようなことを言ったりしたりしたことが「ない」とする児童生徒の割合は、小2を除き、80%を超えている。昨年度と比較すると、今年度の小4を除き、「言ったりしたりした」の割合は増加している。具体的な行為としては、どの学年も「冷やかしの行為、からかい、悪口」が最も多く、次に小1を除き「殴る、蹴る」となっている。

(7) 次のようなことをしている人を見たり聞いたりしたことがありますか。(複数回答可)



どの学年も「冷やかし、からかい、悪口」を見たり聞いたりする割合が一番多い。次いで、小学校では、「殴られる、蹴られる」、中学校では「仲間外れ、無視」が多い。小学校の「殴られる、蹴られる」では、特に小1・小2の割合が、他の学年に比べ高い。

(8) 新型コロナウイルス感染症に関連したことで、心配や不安、困っていることがある人は書いてください。(自由記述) ※一部抜粋

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や家族が感染したら怖い。</li> <li>・感染した時、みんなに知られたらどうしよう。対処法がわからない。</li> <li>・体育の授業で本当にマスクをはずしてよいのか。音楽の合唱は大丈夫なのか。</li> <li>・ワクチンの副作用、後遺症が心配。</li> <li>・欠席が続くと、コロナ感染と噂されそう。</li> <li>・行事がなくなって楽しくない。</li> <li>・修学旅行に行けるか心配。</li> <li>・学習面が心配。学習時間が減る。</li> <li>・オンライン授業にしてほしい。</li> <li>・友達と遊べない</li> <li>・旅行、祖父母の家に行けない。</li> <li>・コロナの我慢が辛い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が感染してしまうのではと不安。</li> <li>・家族や友達が感染しないか心配。</li> <li>・感染症対策の意識が低くなっている。</li> <li>・教室内の空間を確保してほしい。</li> <li>・ワクチンを打ったほうがいいのか。</li> <li>・ワクチンを早く打ちたい。</li> <li>・コロナ差別を撲滅してほしい。</li> <li>・部活や行事ができなかったら嫌。</li> <li>・修学旅行に行っていないのか不安。</li> <li>・行事があっても制限があつてつまらない。</li> <li>・学習面が心配。</li> <li>・早くオンライン授業にしてほしい。</li> <li>・受験生なので休校になったら困る。</li> <li>・学校での会話を楽しめない。</li> </ul>

小学校、中学校ともに、新型コロナウイルスに関して、感染したら心配、学校での感染症対策は十分かなど、不安や心配を抱えている児童生徒が多くみられた。また、学習について、出席停止などの際に、学習時間が減るのではないかと、授業の遅れを取り戻すのが大変など、心配する発言もみられた。さらに、学校行事の実施や内容についての不満や不安がみられた。小学校では、友達と遊べない、どこにも行けないなど、コロナの我慢が辛いという記述がみられた。また、中学校では、ワクチンを打たないと差別を受けそうでこわいなど、ワクチン接種に関して心配す

(9) 学校以外のことで、困っていることなど、先生に伝えたいことがあれば自由に書いてください。(習い事、家でのこと、家族のこと、など) (自由記述) ※一部抜粋

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインゲームで悪口を書かれる。</li> <li>・家族に暴力を受ける。</li> <li>・兄弟の面倒をみさせられる。</li> <li>・親のけんかを見るのが怖い。</li> <li>・友達から暴力や悪口を言われる。</li> <li>・いつも悪口を言われ、一緒に遊びたくないけど、本音は言えない。</li> <li>・日本語が難しくて友達とうまく遊べない。</li> <li>・仲間外れにされている友達が心配。</li> <li>・勉強がわからない。</li> <li>・塾で発言ができない。当てられたら怖い。</li> <li>・たまった気持ちを吐き出せない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE 上でのやりとりがひどい。</li> <li>・クラスラインに誘われないので不安。</li> <li>・匿名での誹謗中傷はまちがっている。</li> <li>・おばあちゃんの介護が大変。</li> <li>・父母の仲が悪い。</li> <li>・自分が避けられたりするの嫌。</li> <li>・友人が悩んでいると自分も不安。</li> <li>・勉強のやり方がわからない。試験が心配。</li> <li>・塾の宿題が多い。疲れる。</li> <li>・将来が不安。</li> <li>・ストレスが発散できない。</li> <li>・自分が HSP なのではないかと心配。</li> </ul>

小学校、中学校ともに、SNS やオンラインゲームによる様々な悩みやストレスを抱えていることが多くみられた。また、家族からの暴力や家族内の不仲、ヤングケアラーと思われるケースなど、家庭内での悩みに関する記載が多くみられた。

#### 4 調査結果の考察

- (1) 設問2の「嫌な気持ちになったことがありますか」と、設問6の「人が嫌な気持ちになることを言ったりしたりしましたか」において、「ある」と回答した児童生徒を比較すると、「嫌な気持ちになった」割合が、「嫌な気持ちになることを言ったりしたりした」割合を上回っています。自分は嫌なことを言ったつもりがなくても、相手にとっては嫌だと感じる場合があり、感じ方がそれぞれ違うということに気付けるよう、対話的な学習場面を工夫したり、道徳教育を充実させる必要があります。
- また、設問2の「嫌な気持ちになった」という内容において、「パソコンやスマートフォンで嫌なことをされた」を選択した割合は、小学校全体で1.5%、中学校全体で1.3%となっています。割合で見ると少数に感じられますが、実数で見ると、小中合計で460人おり、子どもたちの日常にスマートフォンの使用、SNS等でのやりとりが当たり前になっていることを考慮しても、これまで以上に、情報モラル教育や心の教育を充実させていく必要があります。
- (2) 設問3の「誰からされましたか」では、「クラスの人」にされたと回答した割合が最も高く、「他クラス同級生」「上級生」「同じ部活動の人」も含め、同じ学校内での人間関係において、嫌なことをされていることが多いことがわかります。一方、学校以外の「同じ習い事等の人」「その他」の場における人間関係に注目すると、小学校では、最も割合が高い学年が小3で14.4%、次いで小2が13.9%となっています。また、中学校では、中3で5.8%、次いで中2で5.1%となっています。これらの学年に特徴的な活動を考慮すると、小学校では、地域のクラブ活動等、中学校では塾等の場において、嫌な気持ちになっている児童生徒がいると考えられます。このことから、いじめ防止対策は、学校内だけでなく、地域や関係機関等とも連携して取り組む必要があります。
- (3) 設問4の「今も続いていますか」において、「続いている」と回答した児童生徒全体の割合が、昨年度と比較して増加していることから、嫌な気持ちになった児童生徒への初期対応だけでなく、その後の様子を見守り、教育相談等を活用して、嫌なことが解消されているか確認するなど、継続した支援を行う必要があります。
- (4) 設問5の「誰かに相談したりしましたか」において、「話をしていない」と回答した児童生徒は、学年により差はありますが、20%~40%おり、小学校では小5が最も高く、39.4%の児童が相談していないと回答しています。また、中学校では中3が最も高く、35.6%の生徒が相談をしていません。このことから、SOSの出し方教育に、より一層取り組むとともに、児童生徒が相談できる窓口について、子どもたちが利用しやすい形で周知していく必要があります。
- (5) 設問8の「新型コロナウイルス感染症に関連した心配や不安」において、感染に対する不安、感染症対策が不十分なのはと心配する記述が多くみられました。また、中学校では、ワクチン接種の対象年齢になっていることから、早くワクチン接種したいという生徒がいる一方で、安全性に不安を抱いている生徒がいることがわかります。さらに、本来ならばできたはずの行事ができないことに対する不満や、実施することに対する不安など、子どもたちの揺れ動く気持ちが見られました。これらのことから、感染症対策を十分行いながら、学校ならではの学びができるよう、活動内容を工夫して取り組んでいく必要があります。また、発達段階を考慮しながら、様々な制限がかかる中でもできる活動とはどのような内容か、子どもたちが主体的に考える場をつくり、子どもたちが納得して取り組み、その結果として充実感を得られるような活動にしていけることも大切です。

- (6) 設問9の「学校以外のことで、困っていることなど」において、家族からの暴力や家庭内の不仲によるストレスや、ヤングケアラーと思われる悩みといった記述が見られました。学校は、これらの記述について、記名のある場合には、直接児童生徒に詳細を聞き取り、状況を把握したうえで対応していますが、匿名の場合には、対応に苦慮しているとの声が、学校から聞かれます。悩みを抱えた子どもが相談しやすい環境づくりや、学校以外の相談窓口にもアクセスしやすいよう周知する必要があります。

## 5 今後の取組

いじめの問題については、8月に改定した「藤沢市いじめ防止対策基本方針」に基づき、各学校では、「学校いじめ防止基本方針」の改定を行い、学校と教育委員会、関係機関が連携し、更なるいじめの未然防止や早期発見・早期対応を推進していきます。

また、コロナ禍の不安や心配、学校以外の困りごとについて、児童生徒の安全安心につながるような取組の充実に努めていきます。

- (1) 学校は、児童支援担当教諭、生徒指導担当を中心に、学校内において情報を共有し、チームで支援指導していくことが重要になるため、スクールカウンセラーや関係諸機関を活用し専門的な助言を受けながら、さまざまな課題を抱える子どもたち一人ひとりのニーズに応じた対応を行っていきます。
- (2) 学校は、道徳をはじめ、教科や特別活動の中で、児童生徒が主体的に考え対話したり、主体的に取り組む体験活動を通じて「自分を大切にするとともに、他の人を大切にする」という人権意識や、自分の行動を律する規範意識を育むことができるよう努めます。
- (3) 学校は、「クラスの人」から嫌な気持ちにさせられた児童生徒が多かったことを踏まえ、学級がどの児童生徒にとっても自己肯定感を感じられ、安心できる居場所となるよう児童生徒理解に努めるとともに、児童生徒が主体的に取り組む協働的な活動を通して互いを認め合えるように、「絆づくり」の視点を大切にした学級経営に努めていきます。
- (4) 「パソコンやスマートフォンで嫌なことをされた」児童生徒が、今後も増加していくことが懸念されることを踏まえ、学校と教育委員会が連携し、児童生徒に対する情報モラル教育の一層の推進を図るとともに、保護者に対しても、情報モラルに関する情報を提供したり、インターネットやスマートフォンの利用について、家庭で約束事を決めるなど、家庭での指導についての啓発等に努めます。
- (5) 教育委員会では、嫌なことが今でも続いている児童生徒が一定数いることや、ひとりで悩みを抱えてしまったり、嫌な気持ちになっていたりしても、誰にも相談していない児童生徒が一定数いることから、悩みを相談できない児童生徒が、対面での相談につなげることができるように、グーグルアカウントを活用した相談体制の構築に取り組みます。
- (6) 学校は、新型コロナウイルス感染症に関連する差別や偏見、不安や心配等については、引き続き、効果的な教材等を活用し、児童生徒が互いを励まし・支え合える関係を構築できるよう努めます。また、感染症対策を十分に行いながら、学級活動や学校行事など、人とのかかわりを大切にした活動や体験活動などを通して、集団の一員としてよりよい学校生活を送れるよう活動内容を工夫し取り組みます。

- (7) 学校では、家庭内での悩みについては、子どもの様子を継続して見守るとともに、学校組織として情報共有をはかり、場合によってはスクールソーシャルワーカーを要請するなどして、関係機関と連携して支援に努めます。
- (8) 教育委員会では、教職員のいじめに対する意識や対応力を高めるために、スクールロイヤーや、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会を充実させます。